

科目名 (英)	歯科概論 I Compendium of Dental- I	年次	1	必修科目	実務経験	科目 責任者	君塚 友見
		授業形態	講義		無		
		時間数	15	授業回数	8	開講区分	前期
学科・コース	歯科技術予備教育科	単位	1	(コマ数)		曜日/時間	水・木・金/3~4限
講師紹介	海外留学経験があり、国内歯科技工所での臨床経験を有した教員が、臨床事例と関連付けて歯科技工士の業務内容や歯科技工に必要な知識の概要を講義する。						
目的	・歯科技工技術に必要な、専門用語の意味を習得する。						
科目概要	・日常的に歯科技工士が使用する様々な歯科材料、器具、機械の名称や役割、製作する補綴装置について説明する。						
到達目標	・日本の歯科医療システムと専門職(歯科技工士)について説明ができる。 ・歯科技工技術に必要な専門用語の意味を説明できる。						
評価方法	<p>学則に定める評価とする。100~90点A(4.0)、89~80点B(3.0)、79~70点C(2.0)、69~60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。()内はGPA。 欠席日数が学則に定める授業時間の3分の1を超える者は、試験を受けることができない。 評価は、筆記試験の点数を70点、レポートの評価を30点として100点満点換算する。レポートの提出期限については授業内にて伝達する。</p> <p>■ 筆記試験 □ 口頭試験 □ 実技試験 □ 論文 ■ レポート</p>						
教科書	なし		事前事後 学習と その内容	事前学習:プリント教材を使い専門用語の確認を推奨する。 事後学習:プリント教材の内容確認を中心に30分程度、毎日行うことを推進する。			
参考図書	必要に応じて紹介します。						
特記事項	講義及び提示資料について、著作権のある資料を用いた場合を除き、写真撮影及び録音録画を許可する。						
授 業 計 画							
回数	授業テーマ	授業形態	授業内容				
1	歯科の専門用語について①	講義	歯科技工技術に必要な専門用語の内容について意味を習得する。				
2	歯科の専門用語について②	講義	歯科技工技術に必要な専門用語の内容について意味を習得する。				
3	歯科の専門用語について③	講義	歯科技工技術に必要な専門用語の内容について意味を習得する。				
4	歯科技工用機械・器具・材料について	講義	歯科技工を行う上で使用する機械、器具、材料の名称と使用用途について理解し、実習を行う際に機械、器具、材料について予め名称と使用用途を習得する。				
5	歯科の二大疾患について①	講義	歯の構造、虫歯の原因、歯周病の原因について理解し、解剖学的歯の形態や歯科技工物製作時の設計などを考える要因を習得する。				
6	歯科の二大疾患について①	講義	歯の構造、虫歯の原因、歯周病の原因について理解し、解剖学的歯の形態や歯科技工物製作時の設計などを考える要因を習得する。				
7	虫歯の進行による違いについて	講義	虫歯の進行による段階の違いを理解し、歯を削る量の違いによる名称の違いを習得する。				
8	まとめ	講義	歯科業界、歯科技工に関わる専門用語についての復習を行う。				

科目名 (英)	歯科概論Ⅱ Compendium of Dental-Ⅱ	年次	1	必修科目	実務経験	科目 責任者	君塚 友見
		授業形態	講義		無		
		時間数	45	授業回数	23	開講区分	前期
学科・コース	歯科技術予備教育科	単位	3	(コマ数)		曜日・時間	水・木・金/3~4限
講師紹介	海外留学経験があり、国内歯科技工所での臨床経験を有した教員が、臨床事例と関連付けて歯科技工士の業務内容や歯科技工に必要な知識の概要を講義する。						
目的	・歯科技工を行う上で必要な道具の使用方法を理解し、装置の製作方法を習得する。						
科目概要	・歯科で使用する様々な装置の正しい作り方や道具の使用方法について説明する。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・日本の歯科医療システムと専門職(歯科技工士)について説明ができる。 ・歯科技工技術に必要な専門用語の意味を説明できる。 ・歯科技工の重要性及び歯科技工物について構成、技工操作の手順を説明できる。 						
評価方法	<p>学則に定める評価とする。100~90点A(4.0)、89~80点B(3.0)、79~70点C(2.0)、69~60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。()内はGPA。</p> <p>欠席日数が学則に定める授業時間の3分の1を超える者は、試験を受けることができない。</p> <p>評価は、筆記試験の点数を70点、レポートの評価を30点として100点満点換算する。レポートの提出期限については授業内にて伝達する。</p> <p>■ 筆記試験 □ 口頭試験 □ 実技試験 □ 論文 ■ レポート</p>						
教科書	なし			事前事後 学習と その内容	事前学習:プリント教材を使い専門用語の確認を推奨する。 事後学習:プリント教材の内容確認を中心に30分程度、毎日行うことを推進する。		
参考図書	必要に応じて紹介します。						
特記事項	講義及び提示資料について、著作権のある資料を用いた場合を除き、写真撮影及び録音録画を許可する。						
授 業 計 画							
回数	授業テーマ	授業形態	授業内容				
1	義歯製作、意義と目的について① (有床)	講義	有床義歯の意義と目的を理解し、歯が抜けてしまった事後についての知識を習得する。				
2	歯冠修復技工学の概要、クラウンの概要と種類について(修復)	講義	歯冠修復技工学の意義と目的について理解し、歯冠修復の臨床的価値を習得する。				
3	上顎中切歯の部分名称について (解剖)	講義	唇側面・舌側面・近心面・遠心面・切縁の各面から見た部分名称を習得する。				
4	義歯製作、意義と目的について② (有床)	講義	有床義歯の意義と目的を理解し、歯が抜けてしまった事後についての知識をより深く習得する。				
5	クラウンの具備条件について① (修復)	講義	歯および歯列との関係を理解し、接触点の強さや位置、形態について習得する。				
6	上顎犬歯の特徴について (解剖)	講義	上顎中切歯の形態的な特徴を習得する。				
7	生体ランドマークについて (有床)	講義	生体におけるランドマークについて理解し、上下顎の特徴を習得する。				
8	クラウンの具備条件について② (修復)	講義	歯周組織との関係を学び生物学的幅径について習得する。				
9	各基準平面について (有床)	講義	生体に存在する基準平面について理解し、義歯製作時注意事項を習得する。				
10	上顎中切歯と上顎側切歯の比較 (解剖)	講義	2本の上顎切歯(中切歯と側切歯)を比較し、違いを習得する。				
11	リリーフ・ポストダムについて (有床)	講義	リリーフとポストダムについて理解し、目的や方法を習得する。				
12	クラウンの具備条件について③ (修復)	講義	補綴物の機能の回復について理解し、噛み合わせについて習得する。				
13	上顎犬歯の部分名称について (解剖)	講義	唇側面・舌側面・近心面・遠心面・切縁の各面から見た部分名称を習得する。				
14	リリーフ・ポストダムについて (有床)	講義	リリーフとポストダムについて理解し、目的や方法を習得する。				
15	クラウンの具備条件について④ (修復)	講義	補綴物の機能の回復について理解し、噛み合わせについて習得する。				

16	咬合床について (有床)	講義	咬合床について寸法、設定位置について習得する。
17	上顎犬歯の特徴について (解剖)	講義	上顎中切歯の形態的な特徴を習得する。
18	咬合採得について (有床)	講義	咬合採得について理解し、咬合床についての知識を習得する。
19	上顎犬歯と下顎犬歯の比較 (解剖)	講義	2本の犬歯(上顎犬歯と下顎犬歯)を比較し、違いを習得する。
20	義歯床について (有床)	講義	義歯床の名称、床縁形態、着脱方向を理解し、製作に必要な知識を習得する。
21	試験に向けてまとめ (概論)・(修復)	講義	試験に向けて歯科医療と歯冠修復物について復習する。
22	試験に向けてまとめ (有床)	講義	試験に向けて歯を失ってしまった事後の歯科技工について復習する。
23	歯の形態的特徴まとめ (45分授業)	講義	上顎切歯(中切歯と側切歯)ならびに上下顎犬歯の特徴を復習する。

科目名 (英)	歯科概論Ⅲ Compendium of Dental-Ⅲ	年次	1	必修科目	実務経験	科目 責任者	君塚 友見
		授業形態	講義		無		
		時間数	60	授業回数	30	開講区分	
学科・コース	歯科技術予備教育科	単位	4	(コマ数)		曜日・時間	水・木・金/3~4限
講師紹介	海外留学経験があり、国内歯科技工所での臨床経験を有した教員が、臨床事例と関連付けて歯科技工士の業務内容や歯科技工に必要な知識の概要を講義する。						
目的	・歯科技工を行う上でスムーズに作業が行えるように知識、技術を習得する。						
科目概要	・専門的な実習との繋がりを理解することでスムーズに作業が行えるよう、必要な知識、技術について説明する。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・日本の歯科医療システムと専門職について説明できる。 ・歯や口腔の概説、歯の形態的特徴を説明できる。 ・歯科技工の重要性及び歯科技工物について構成、技工操作の手順を説明できる。 						
評価方法	<p>学則に定める評価とする。100~90点A(4.0)、89~80点B(3.0)、79~70点C(2.0)、69~60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。()内はGPA。</p> <p>欠席日数が学則に定める授業時間の3分の1を超える者は、試験を受けることができない。</p> <p>評価は、筆記試験の点数を70点、レポートの評価を30点として100点満点換算する。レポートの提出期限については授業内にて伝達する。</p> <p>■ 筆記試験 □ 口頭試験 □ 実技試験 □ 論文 ■ レポート</p>						
教科書	なし			事前事後 学習と その内容	事前学習:プリント教材を使い専門用語の確認を推奨する。 事後学習:プリント教材の内容確認を中心に30分程度、毎日行うことを推進する。		
参考図書	必要に応じて紹介します。						
特記事項	講義及び提示資料について、著作権のある資料を用いた場合を除き、写真撮影及び録音録画を許可する。						
授 業 計 画							
回数	授業テーマ	授業形態	授業内容				
1	人工歯について (解剖)	講義	人工歯について理解し、その材料、選択方法を習得する。				
2	保存修復について① (修復)	講義	窩洞の断面図についての各部の名称を理解し、特徴について習得する。				
3	上顎第一大臼歯の部分名称について (解剖)	講義	頬側面・舌側面・近心面・遠心面・咬合面の各面から見た部分名称を習得する。				
4	全部床義歯人工歯排列 (有床)	講義	全部床義歯の人工歯排列について理解し、被蓋、歯槽頂間線の法則などを習得する。				
5	上顎第一大臼歯について (解剖)	講義	上顎第一大臼歯の形態的な特徴について習得する。				
6	保存修復について② (修復)	講義	窩洞の断面図についての各部の名称を理解し、特徴について習得する。				
7	保存修復まとめ (修復)	講義	保存修復の分類、窩洞の分類について習得する。				
8	上顎第一小臼歯と上顎第二小臼歯の 特徴について(解剖)	講義	2本の上顎大臼歯を比較し、違いについて習得する。				
9	全部床義歯歯肉形成 (有床)	講義	歯肉形成において理解し、唇頬側、舌側、口蓋などの形態について習得する。				
10	辺縁形態と製作手順について① (修復)	講義	辺縁形態について理解し、全部被覆冠の製作について習得する。				
11	全部床の埋没~重合 (有床)	講義	埋没について理解し、フラスコ埋没の種類について習得する。				
12	下顎第一大臼歯の部分名称について (解剖)	講義	頬側面・舌側面・近心面・遠心面・咬合面の各面から見た部分名称を習得する。				
13	辺縁形態と製作手順について② (修復)	講義	全部金属冠の製作において手順と使用材料を理解し、補綴物製作について習得する。				
14	全部床の埋没~重合 (有床)	講義	埋没について理解し、フラスコ埋没の種類について習得する。				
15	下顎第一大臼歯の特徴について (解剖)	講義	下顎第一大臼歯の形態的な特徴について習得する。				

16	作業用模型と咬合採得について (修復)	講義	間接法に使用される作業用模型の種類を理解し、特徴について習得する。
17	下顎第1大臼歯と下顎第2大臼歯の比較 (解剖)	講義	2本の下顎大臼歯を比較し、違いについて習得する。
18	上顎第1小臼歯の部分名称について (解剖)	講義	頬側面・舌側面・近心面・遠心面・咬合面の各面から見た部分名称について習得する。
19	補綴物の製作手順について (修復)	講義	補綴物の製作手順において歯科診療所と歯科技工所との違いについて習得する。
20	義歯の研磨について (有床)	講義	歯肉形成された歯肉をレジンに置き換える方法(埋没)を理解し、製作手順を習得する。
21	上顎第1小臼歯の特徴について (解剖)	講義	上顎第1小臼歯の形態的な特徴について習得する。
22	義歯製作、意義と目的について (有床)	講義	生体におけるランドマークについて理解し、上下顎の特徴について習得する。
23	顎口腔系について (顎口腔)	講義	顎口腔系の機能や構成を理解し、形態の維持について習得する。
24	印象採得について (修復)	講義	補綴物の製作に必要な印象採得、印象材の種類について習得する。
25	上顎第1小臼歯と上顎第2小臼歯の比較 (解剖)	講義	2本の上顎小臼歯を比較し、違いについて習得する。
26	サベイングの考え方、咬合器について (有床)	講義	入れ歯が外れないために必要な考え方を理解し、製作過程を習得する。
27	下顎位について (顎口腔)	講義	生体の下顎の位置による名称を理解し、下顎運動について習得する。
28	研究用模型、印象用トレーについて (修復)	講義	研究用模型と印象用トレーについて理解し、製作ステップを習得する。
29	歯の形態的特徴まとめ (解剖)	講義	上顎大臼歯、下顎大臼歯ならびに上顎小臼歯の特徴を復習し、知識の定着を確認する。
30	試験に向けてまとめ (修復)・(有床)	講義	試験に向けて歯冠修復物製作について、歯を失ってしまった事後について復習する。

科目名 (英)	歯科概論Ⅳ Compendium of Dental-Ⅳ	年次	1	必修科目	実務経験	科目 責任者	君塚 友見
		授業形態	講義		無	開講区分	
		時間数	60	授業回数	30		
学科・コース	歯科技術予備教育科	単位	4	(コマ数)		曜日・時間	後期 水・木・金/3~4限
講師紹介	海外留学経験があり、国内歯科技工所での臨床経験を有した教員が、臨床事例と関連付けて歯科技工士の業務内容や歯科技工に必要な知識の概要を講義する。						
目的	・歯科技工を行う上でよりスムーズに作業が行えるようにより深く知識、技術を習得する。						
科目概要	・専門的実習との繋がりをより深く理解ことで、スムーズに歯科技工が行えることを目指し、知識と技術について説明する。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・日本の歯科医療システムと専門職についてより深く説明ができる。 ・歯や口腔の概説、歯の形態的特徴についてより深く理解し、説明することができる。 ・歯科技工の重要性及び歯科技工物についての構成、技工操作手順についてより深く説明することができる。 						
評価方法	<p>学則に定める評価とする。100～90点A(4.0)、89～80点B(3.0)、79～70点C(2.0)、69～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。()内はGPA。</p> <p>欠席日数が学則に定める授業時間の3分の1を超える者は、試験を受けることができない。</p> <p>評価は、筆記試験の点数を70点、レポートの評価を30点として100点満点換算する。レポートの提出期限については授業内にて伝達する。</p> <p>■ 筆記試験 □ 口頭試験 □ 実技試験 □ 論文 ■ レポート</p>						
教科書	なし			事前事後 学習と その内容	事前学習:プリント教材を使い専門用語の確認を推奨する。 事後学習:プリント教材の内容確認を中心に30分程度、毎日行うことを推進する。		
参考図書	必要に応じて紹介します。						
特記事項	講義及び提示資料について、著作権のある資料を用いた場合を除き、写真撮影及び録音録画を許可する。						
授 業 計 画							
回数	授業テーマ	授業形態	授業内容				
1	支台装置について① (有床)	講義	クラスプを知るための重要語句、材料について理解し、維持力の因子について習得する。				
2	支台装置について② (有床)	講義	クラスプを知るための重要語句、材料についてより深く理解し、維持力の因子について習得する。				
3	下顎の限界運動について① (顎口腔)	講義	生体における下顎の運動について理解し、下顎限界運動(ポッセルトの図形)を習得する。				
4	支台装置について③ (有床)	講義	直接、間接、補助的維持装置について理解し、クラスプの種類について習得する。				
5	下顎側切歯の特徴について (解剖)	講義	頬側面・舌側面・近心面・遠心面・咬合面の各面から見た部分名称について習得する。				
6	支台装置、連結装置について (有床)	講義	クラスプ各部の名称、働きを理解し、連結装置の分類について習得する。				
7	下顎の限界運動について② (顎口腔)	講義	生体における下顎の運動について理解し、下顎限界運動(ポッセルトの図形)について習得する。				
8	暫間修復物について (修復)	講義	支台歯形成された後の治療について理解し、製作方法、治療手順について習得する。				
9	支台築造について① (修復)	講義	支台築造について理解し、種類について習得する。				
10	上顎に使用する連結装置について (有床)	講義	上顎に使用される連結装置について理解し、幅や設置位置による分類について習得する。				
11	下顎第2小臼歯の特徴について (解剖)	講義	下顎第2小臼歯の形態的な特徴について習得する。				
12	前装冠について① (修復)	講義	前装冠の種類について理解し、材料による違いについて習得する。				
13	下顎第1小臼歯と下顎第2小臼歯の比較 (解剖)	講義	2本の下顎小臼歯を比較し、違いについて習得する。				
14	歯の形態的特徴まとめ① (解剖)	講義	上顎切歯、上下顎犬歯ならびに上顎大臼歯の特徴を復習し、知識の定着を確認する。				
15	下顎の側方運動について① (顎口腔)	講義	下顎の側方方向への動きについて理解し、顎頭の運動路について習得する。				

16	前装冠について② (修復)	講義	前装冠について理解し、製作についての要件を習得する。
17	下顎の側方運動について① (顎口腔)	講義	下顎の側方方向への動きについて理解し、顎頭の運動路について習得する。
18	下顎に使用する連結装置について (有床)	講義	下顎に使用される連結装置について理解し、下顎舌側の連結装置について習得する。
19	下顎の側方運動について② (顎口腔)	講義	下顎の側方方向時の切歯路角の名称を理解し、切歯点の動きについて習得する。
20	前装冠について③ (修復)	講義	前装冠について理解し、製作についての要件を習得する。
21	歯の形態的特徴まとめ② (解剖)	講義	下顎大臼歯、上顎小臼歯ならびに下顎小臼歯の特徴を復習し、知識の定着を確認する。
22	義歯の製作方法① (有床)	講義	重合された義歯の咬合調整の方法を理解し、削合について習得する。
23	ポンティック・連結について (修復)	講義	ポンティックの種類について理解し、審美性と自浄性について習得する。連結部における要件と種類について理解し、連結方法について習得する。
24	義歯の製作方法② (有床)	講義	重合された義歯の咬合調整の方法を理解し、削合について習得する。
25	流し込みレジンについて (有床)	講義	歯肉形成された歯肉をレジンに置き換える方法(埋没)を理解し、製作手順について習得する。
26	咬合器再装着～削合 (有床)	講義	咬合器再装着の方法と選択削合について理解し、咬合調整について習得する。
27	義歯の研磨について (有床)	講義	義歯の研磨手順を理解し、その特徴と方法について習得する。
28	試験に向けて (材料学)・(有床)	講義	試験に向けて歯科技工と歯科医療、歯科材料についての重要性の理解を深める。
29	試験に向けて (修復)	講義	試験に向けて歯冠修復物の特徴について理解を深める。
30	試験に向けて (顎口腔)	講義	試験に向けて生体の顎の動きについて理解を深める。

科目名 (英)	外国語 I Foreign Language I	年次	1	必修科目	実務経験	科目 責任者	柳 京子
		授業形態	講義		有		
		時間数	15	授業回数	8 (コマ数)	開講区分	
学科・コース	歯科技術予備教育科	単位	1	曜日・時間		木/3~4限	
講師紹介	外国人向けの日本語研修や、技術研修生向けの短期速習型教育の経験を有する教員が外国人の日本語学習に適したe-learning教材の開発や、企業に応じたオンデマンド型の日本語教育を実施してきた経験を活かして授業を行います。						
目的	・日本語能力試験(JLPT)でのN3合格を目指し、日本語の語彙・漢字・文法・読解・聴解について習得する。						
科目概要	・母国語以外の言語(日本語)を理解し、日本における生活習慣を習得する。						
到達目標	・日本語能力試験(JLPT)N3に合格できる日本語レベルになる。						
評価方法	<p>学則に定める評価とする。100~90点A(4.0)、89~80点B(3.0)、79~70点C(2.0)、69~60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。()内はGPA。</p> <p>欠席日数が学則に定める授業時間の3分の1を超える者は、試験を受けることができない。</p> <p>評価は、2回の模擬試験の平均点を100点満点換算する。</p> <p>■ 筆記試験 □ 口頭試験 □ 実技試験 □ 論文 □ レポート</p>						
教科書	日本語能力試験 模試と対策 N3(アスク出版)			事前事後 学習と その内容	事前学習:教科書の語彙について予習を行うことを推奨する。 事後学習:授業内の内容について30分程度の見直しを推奨する。		
参考図書	必要に応じて紹介します。						
特記事項							
授 業 計 画							
回数	授業テーマ	授業形態	授業内容				
1	N3レベルの文字・語彙・聴解について学ぶ①	講義	N3レベルの文字、語彙、聴解についての問題を解く。				
2	N3レベルの文字・語彙・聴解について学ぶ②	講義	N3レベルの文字、語彙、聴解についての問題を解く。				
3	N3レベルの文字・語彙・聴解について解説を受ける①	講義	N3レベルの文字、語彙、聴解についての問題について解説を受けることで日本語能力を習得する。				
4	N3レベルの文字・語彙・聴解について解説を受ける②	講義	N3レベルの文字、語彙、聴解についての問題について解説を受けることで日本語能力を習得する。				
5	N3レベルの文字・語彙・聴解について学ぶ③	講義	N3レベルの文字、語彙、聴解についての問題を解く。				
6	N3レベルの文字・語彙・聴解について学ぶ④	講義	N3レベルの文字、語彙、聴解についての問題を解く。				
7	N3レベルの文字・語彙・聴解について解説を受ける③	講義	N3レベルの文字、語彙、聴解についての問題について解説を受けることで日本語能力を習得する。				
8	N3レベルの文字・語彙・聴解について解説を受ける④	講義	N3レベルの文字、語彙、聴解についての問題について解説を受けることで日本語能力を習得する。				

科目名 (英)	外国語Ⅱ	年次	1	必修科目	実務経験	科目 責任者	常次 亨介
	Foreign Language II	授業形態	講義		有		
			時間数	15	授業回数	8	開講区分
学科・コース	歯科技術予備教育科	単位	1	(コマ数)			曜日・時間
講師紹介	外国人向けの日本語研修をや、技術研修生向けの短期速習型教育の経験を有する教員が外国人の日本語学習に適したe-learning教材の開発や、企業に応じたオンデマンド型の日本語教育を実施してきた経験を活かして授業を行います。						
目的	・日本語能力試験(JLPT)でのN3、N2合格を目指し、日本語の読解について習得する。						
科目概要	・母国語以外の言語(日本語)をより深く理解し、生活習慣の違い、文化の違いについて習得する。						
到達目標	・日本語能力試験N3、N2に合格できるレベルになる。						
評価方法	<p>学則に定める評価とする。100~90点A(4.0)、89~80点B(3.0)、79~70点C(2.0)、69~60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。()内はGPA。</p> <p>欠席日数が学則に定める授業時間の3分の1を超える者は、試験を受けることができない。</p> <p>評価は、筆記試験の点数を70点、レポートの評価を30点として100点満点換算する。レポートの提出期限については授業内にて伝達する。</p> <p>■ 筆記試験 □ 口頭試験 □ 実技試験 □ 論文 ■ レポート</p>						
教科書	日本語総まとめN3読解・N2読解(アスク出版)			事前事後 学習と その内容	事前学習:教科書の語彙について予習を行うことを推奨する。		
参考図書	必要に応じて紹介します。				事後学習:授業内の内容について30分程度の見直しを推奨する。		
特記事項							
授 業 計 画							
回数	授業テーマ	授業形態	授業内容				
1	・身の回りの文書やお知らせなどの案内を 読めるようになる。	講義	割引券、クーポン、ダイレクトメールや案内、試験要項、募集などの情報の表現について習得する。				
2	・お知らせや通知を読んで理解する。	講義	カタログ、お知らせ、説明書、保証書などの情報の表現について習得する。				
3	・意見文や説明文、通信文を読んで理解する。	講義	意見文、説明文などのトピックメール、手紙、はがき、FAX(ビジネスレター)などの情報の表現について習得する。				
4	・エッセイや小説、新聞を読んで理解する。	講義	エッセイ、小説、新聞についての情報の表現を習得する。				
5	・日記や小説、新聞を読んで理解する。 ①	講義	日記、小説、新聞についての情報の表現を習得する。				
6	・日記や小説、新聞を読んで理解する。 ②	講義	日記、小説、新聞についての情報の表現をより深く習得する。				
7	・内容理解確認①	講義	様々な日本語表現について復習し、日本語能力の向上について確認を行う。				
8	・内容理解確認②	講義	様々な日本語表現について復習し、日本語能力の向上について確認を行う。				

科目名 (英)	造形美術 Compendium of Art of Dental Technology	年次	1	必修科目	実務経験	科目責任者	川添 歩美
		授業形態	実習		有		
学科・コース	歯科技術予備教育科	時間数	30	授業回数	15 (コマ数)	開講区分	前期
		単位	1	曜日・時間		木/3~5限	
講師紹介	美術大学を卒業し、歯科技工所や歯科医院での臨床経験を有した教員が歯科技工へ通じる美術の手技について実習を行う。						
目的	・歯牙模型のデッサンを通して歯の見方や表現方法の基礎を理解し、表現する。						
科目概要	・立体物の模倣を行う時に必要な見本の見方、捉え方を理解し、デッサンができる。						
到達目標	・基本的なデッサンの描き方を理解する。 ・4種類の歯について形の特徴を理解し、展開図に描くことができる。						
評価方法	<p>学則に定める評価とする。100～90点A(4.0)、89～80点B(3.0)、79～70点C(2.0)、69～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。()内はGPA。</p> <p>欠席日数が学則に定める授業時間の3分の1を超える者は、試験を受けることができない。</p> <p>評価は、実技試験として「作品の評価」を70点、レポートの評価を30点として100点満点とする。提出日は最終授業日から7日後の16:45までとする。</p> <p><input type="checkbox"/> 筆記試験 <input type="checkbox"/> 口頭試験 <input checked="" type="checkbox"/> 実技試験 <input type="checkbox"/> 論文 <input checked="" type="checkbox"/> レポート</p>						
教科書	なし			事前事後学習とその内容	事前学習：シラバスを確認し、必要な準備をして授業に臨むこと。 事後学習：授業での進行より遅れたときには、次回までの時間で取り戻すように努力する。		
参考図書	必要ときに紹介します。						
特記事項	授業では、HBとBの鉛筆、消しゴムを使用します。						

授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	鉛筆デッサンにおける立体感の表現①	実習	デッサンを始める前に、デッサンで使用する基本的な陰影のつけ方について習得する。
2	鉛筆デッサンにおける立体感の表現②	実習	身近な題材(空き缶、空き瓶など)を使いデッサンの基本、物の見方、描き方を習得する。
3	鉛筆デッサンにおける立体感の表現③	実習	身近な題材(空き缶、空き瓶など)を使いデッサンの基本、物の見方、描き方を習得する。
4	鉛筆デッサンにおける立体感の表現④	実習	身近な題材(空き缶、空き瓶など)を使いデッサンの基本、物の見方、描き方を習得する。
5	鉛筆デッサンにおける立体感の表現⑤	実習	口腔内の形態をデッサンし、陰影をつけて立体的に表現する描き方を習得する。
6	鉛筆デッサンにおける立体感の表現⑥	実習	口腔内の形態をデッサンし、陰影をつけて立体的に表現する描き方を習得する。
7	上顎中切歯の形態的特徴の表現①	実習	前歯を観察し、形態の特徴を理解してデッサンを行う。
8	上顎中切歯の形態的特徴の表現②	実習	前歯を観察し、形態の特徴を理解してデッサンを行う。
9	上顎犬歯の形態的特徴の表現①	実習	前歯(犬歯)を観察し、形態の特徴を理解してデッサンを行う。
10	上顎犬歯の形態的特徴の表現②	実習	前歯(犬歯)を観察し、形態の特徴を理解してデッサンを行う。
11	上顎第一大臼歯の形態的特徴の表現①	実習	上顎の奥歯(大臼歯)を観察し、形態の特徴を理解してデッサンを行う。
12	上顎第一大臼歯の形態的特徴の表現②	実習	上顎の奥歯(大臼歯)を観察し、形態の特徴を理解してデッサンを行う。
13	下顎第一大臼歯の形態的特徴の表現①	実習	下顎の奥歯(大臼歯)を観察し、形態の特徴を理解してデッサンを行う。
14	下顎第一大臼歯の形態的特徴の表現②	実習	下顎の奥歯(大臼歯)を観察し、形態の特徴を理解してデッサンを行う。
15	まとめ	実習	これまでに習得した手法を用いて課題に取り組む。

科目名 (英)	歯科材料学 I Dental Materials Science- I	年次	1	必修科目	実務経験	科目 責任者	烏 リハン
		授業形態	演習		無		
		時間数	15	授業回数	8 (コマ数)	開講区分	
学科・コース	歯科技術予備教育科	単位	1	曜日/時間		金/3限	
講師紹介	歯科医師であり、大学附属病院で材料の研究をしている講師が、材料の正しい知識と理論に基づいて事例を交えながら授業を行う。						
目的	・歯科技工において使用する石膏や印象材、ワックス、レジン、セラミックの特性について理解する。						
科目概要	・歯科医療で用いる様々な材料を中心に、実際の歯科材料を取り扱いながら、それぞれの特性を説明する。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・歯科材料の種類を説明できる。 ・歯科材料の正しい取り扱い方法の説明ができる。 						
評価方法	<p>学則に定める評価とする。100～90点A(4.0)、89～80点B(3.0)、79～70点C(2.0)、69～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。()内はGPA。</p> <p>欠席日数が学則に定める授業時間の3分の1を超える者は、試験を受けることができない。</p> <p>評価は、筆記試験の点数を70点、レポートの評価を30点として100点満点換算する。レポートの提出期限については授業内にて伝達する。</p> <p>■ 筆記試験 □ 口頭試験 □ 実技試験 □ 論文 ■ レポート</p>						
教科書	なし			事前事後 学習と その内容	事後学習:授業内で使用したプリント教材について復習し、専門的な特性について理解を深めることを推奨する。		
参考図書	別途、授業内で紹介する。						
特記事項	講義および掲示資料について、著作権のある資料を用いた場合を除き、写真撮影及び録音録画を許可する。						

授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	歯科の材料について	演習	歯科で使用する材料の種類を理解し、実際の義歯や鑄造冠などに触れることで、構造や役割について習得する。
2	石膏	演習	石膏の種類や性質について理解し、用途に合わせた石膏について習得する。
3	印象材① (アルジネート印象材)	演習	印象材の種類や性質について理解し、用途に合わせた印象材について習得する。
4	印象材② (シリコーン印象材)	演習	印象材の種類や性質について理解し、用途に合わせた印象材について習得する。
5	ワックス	演習	蠟型をつくるために使用するワックスの種類や性質について理解し、取り扱い時の注意点などを習得する。
6	レジン①	演習	仮歯や個人トレーをつくるために使うレジンの種類や性質について理解し、常温重合レジンの取り扱いを習得する。
7	レジン②	演習	義歯をつくるために使うレジンの種類や性質について理解し、義歯用レジンの取り扱いを習得する。
8	後期まとめ	演習	「歯科材料学 I」の内容について、今まで実施した授業内容を振り返り、プリントなどを用いて知識の定着を確認する。

科目名 (英)	歯科材料学Ⅱ Dental Materials Science-Ⅱ	年次	1	必修科目	実務経験	科目 責任者	烏 リハン
		授業形態	演習		無	開講区分	
		時間数	15	授業回数	8		
学科・コース	歯科技術予備教育科	単位	1	(コマ数)			
講師紹介	歯科医師であり、大学附属病院で材料の研究をしている講師が、材料の正しい知識と理論に基づいて事例を交えながら授業を行う。						
目的	・歯科技工において使用する金属の特性やセラミックの特性について理解する。						
科目概要	・歯科医療で用いる材料を加工して製作する際の材料の特性を説明する。						
到達目標	・歯科材料の種類を説明できる。 ・歯科材料の正しい取り扱い方法の説明ができる。						
評価方法	学則に定める評価とする。100～90点A(4.0)、89～80点B(3.0)、79～70点C(2.0)、69～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。()内はGPA。 欠席日数が学則に定める授業時間の3分の1を超える者は、試験を受けることができない。 評価は、筆記試験の点数を70点、レポートの評価を30点として100点満点換算する。レポートの提出期限については授業内にて伝達する。 <input checked="" type="checkbox"/> 筆記試験 <input type="checkbox"/> 口頭試験 <input type="checkbox"/> 実技試験 <input type="checkbox"/> 論文 <input checked="" type="checkbox"/> レポート						
教科書	なし			事前事後 学習と その内容	事後学習:授業内で使用したプリント教材について復習し、専門的な特性について理解を深めることを推奨する。		
参考図書	別途、授業内で紹介する。						
特記事項	講義および掲示資料について、著作権のある資料を用いた場合を除き、写真撮影及び録音録画を許可する。						

授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	埋没材、埋没操作	演習	鑄造する工程で使う埋没材の種類や性質について理解することで精度の良い鑄造体の製作について習得する。
2	歯科用合金	演習	鑄造冠や金属フレームをつくるために使う金属の種類や性質について理解し、口腔内で使える金属と使えない金属について習得する。
3	融解熱源・鑄造機	演習	金属を融解・鑄造する工程で使う熱源や鑄造機について理解し、鑄造の効率について習得する。
4	鑄造欠陥	演習	金属を融解・鑄造する工程でおこる鑄造欠陥の原因と予防方法について理解することで、鑄造の失敗についての防止方法を習得する。
5	セラミックス①	演習	前歯の審美材料として使用されるセラミックの種類や性質について理解し、セラミックの取り扱いについて習得する。
6	セラミックス②	演習	前歯の審美材料として使用されるセラミックの種類や性質について理解し、セラミックの取り扱いについて習得する。
7	研磨 (研磨材の種類と用途)	演習	金属やレジン形態修正や仕上げ研磨に使用する研磨材や器械について理解し、効率の良い研磨について習得する。
8	後期まとめ	演習	「歯科材料学Ⅱ」の内容について、今まで実施した授業内容を振り返り、プリントなどを用いて知識の定着を確認する。

科目名 (英)	歯科技術実習 I Training of Dental Technology I	年次	1	必修科目	実務経験	科目 責任者	君塚 友見
		授業形態	実習		有	開講区分	
		時間数	180	授業回数 (コマ数)	90		
学科・コース	歯科技術予備教育科	単位	6			曜日/時間	水～土/3限～5限
講師紹介	海外留学経験があり、国内歯科技工所での臨床経験を有した教員が、臨床事例と関連づけて、歯科技術の手法を指導する。						
目的	歯科技工で多く使用される材料であるワックスや金属、レジンについて、材料の取り扱いや補綴物の製作手順について習得する。						
科目概要	・補綴物の製作を通じて、歯科技工で多く使用される材料の性質や取り扱い方法について理解する。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・インレー(詰め物)の製作手順の説明ができる。 ・部分床義歯(部分入れ歯)の製作順序の説明ができる。 ・ワックス操作が行える。 						
評価方法	<p>学則に定める評価とする。100～90点A(4.0)、89～80点B(3.0)、79～70点C(2.0)、69～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。()内はGPA。 欠席日数が学則に定める授業時間の3分の1を超える者は、試験を受けることができない。 評価は、実技試験として「作品の評価」を70点、レポートの評価を30点として100点満点とする。提出日は最終授業日から7日後の16:45までとする。</p> <p><input type="checkbox"/> 筆記試験 <input type="checkbox"/> 口頭試験 <input checked="" type="checkbox"/> 実技試験 <input type="checkbox"/> 論文 <input checked="" type="checkbox"/> レポート</p>						
教科書	なし		事前事後 学習と その内容	事前学習:作業を示す専門用語の確認を20分程度推奨する。 事後学習:作業工程のポイントについて繰り返し復習することを推奨する。			
参考図書	授業内にて紹介する。						
特記事項	講義及び提示資料について、著作権のある資料を用いた場合を除き、写真撮影及び録音録画を許可する。						
授 業 計 画							
回数	授業テーマ	授業形態	授業内容				
1	ワックストレーニング①	実習	ガスバーナー、インスツルメントの使用方法を理解する。円柱でワックストレーニングを行う。				
2	ワックストレーニング②	実習	円柱を使ってワックストレーニングを行う。				
3	ワックストレーニング③	実習	円柱を使ったワックストレーニングを習得する。				
4	咬合面パターンゴム枠へワックスを流す①	実習	インスツルメントを使用してのワックス操作を習得する。				
5	咬合面パターンゴム枠へワックスを流す②	実習	ワックスの温度調整を意識してワックス操作を行う。				
6	咬合面パターンブルー植立①	実習	咬合面パターンにブルー植立し埋没作業を行う。				
7	咬合面パターンブルー植立② 埋没作業①	実習	咬合面パターンにブルー植立し埋没作業を行う。				
8	咬合面パターン鑄造①	実習	鑄造操作の手順を理解して咬合面パターンの鑄造作業を行う。				
9	咬合面パターン鑄造②	実習	鑄造操作の手順を理解して咬合面パターンの鑄造作業を行う。				
10	咬合面パターン鑄造③	実習	鑄造操作の手順を理解して咬合面パターンの鑄造作業を行う。				
11	咬合面パターン研磨作業①	実習	鑄造した咬合面パターンの研磨作業を理解し、研磨用ポイントの違いについて習得する。				
12	咬合面パターン研磨作業②	実習	鑄造した咬合面パターンの研磨作業を理解し、研磨用ポイントの違いについて習得する。				
13	咬合面パターン研磨完成	実習	研磨の手順を理解し、咬合面パターンの研磨を習得する。				
14	ワックストレーニング④	実習	歯冠形態の製作トレーニング模型を使い、ワックスアップのトレーニングを行う。				
15	ワックストレーニング⑤	実習	歯冠形態の製作トレーニング模型を使い、ワックスアップのトレーニングを行う。				

16	ワックストレーニング⑥	実習	歯冠形態の製作トレーニング模型を使い、ワックスアップのトレーニングを行う。
17	ワックストレーニング⑦	実習	歯冠形態の製作トレーニング模型を使い、ワックスアップのトレーニングを行う。
18	Ⅱ級インレー蠟型採得①	実習	Ⅱ級インレーの蠟型採得を行う。
19	Ⅱ級インレー蠟型採得②	実習	Ⅱ級インレーの蠟型採得を行う。
20	Ⅱ級インレー蠟型採得③	実習	Ⅱ級インレーの蠟型採得を行い、辺縁(マージン)処理について習得する。
21	Ⅱ級インレー蠟型採得④	実習	Ⅱ級インレーの蠟型採得を行い、辺縁(マージン)処理について習得する。
22	Ⅱ級インレースプルー植立①	実習	辺縁(マージン)処理を理解し、スプルー植立を行う。
23	Ⅱ級インレースプルー植立②・埋没①	実習	スプルー植立から埋没作業を行う。
24	Ⅱ級インレー埋没②	実習	スプルー植立から埋没作業を行う。
25	Ⅱ級インレー鑄造①	実習	鑄造作業を復習し、鑄造作業を行う。
26	Ⅱ級インレー鑄造②・石膏注入①	実習	鑄造作業を復習し、鑄造作業を行う。 鑄造を待っている間に石膏注入を行う。(全部金属冠上下顎模型)
27	石膏注入②	実習	鑄造を待っている間に石膏注入を行う。(全部金属冠上下顎模型)
28	Ⅱ級インレー研磨①	実習	インレーの鑄造体の模型への適合を行う。
29	Ⅱ級インレー研磨②	実習	インレーの鑄造体の研磨作業を行う。
30	Ⅱ級インレー研磨③	実習	インレーの鑄造体の研磨を完成させ、インレーの製作について習得する。
31	ワックストレーニング⑧	実習	歯冠形態の製作トレーニング模型を使い、ワックスアップのトレーニングを行う。
32	ワックストレーニング⑨	実習	歯冠形態のトレーニング模型を使い、試験形式でのワックスアップトレーニングを行う。
33	上顎第一大臼歯模型製作①	実習	下顎の模型の基底面を整えアンダーカットの付与を行う。
34	上顎第一大臼歯模型製作②	実習	下顎模型の咬合器装着を行う。
35	上顎第一大臼歯模型製作③	実習	上顎模型の口蓋をバーで削って馬蹄形に整える。
36	上顎第一大臼歯模型製作④	実習	分割模型の分割ラインの設計を理解し、分割ラインの設計を行う。
37	上顎第一大臼歯模型製作⑤	実習	石膏棒にピンドリルの練習を行い、ピンドリルの扱いを習得する。
38	上顎第一大臼歯模型製作⑥	実習	上顎模型にダウエルピンホール、回転防止溝を付与し、ダウエルピンの植立を行う。
39	上顎第一大臼歯模型製作⑦	実習	作業用模型の二次石膏の注入を理解し、模型製作を行う。
40	上顎第一大臼歯模型製作⑧	実習	作業用模型の二次石膏を整え、のこぎりで模型を分割し、咬合器装着のための上顎模型にアンダーカットの付与を行う。
41	上顎第一大臼歯模型製作⑨	実習	支台歯のトリミングについて理解し、マイクログラフの使い方を習得する。
42	全部金属冠咬合器装着①	実習	全部金属冠の下顎模型の咬合器装着を行う。
43	全部金属冠咬合器装着②	実習	上顎模型のダウエルピン部分に石膏操作のためのパラフィンワックスの付与を行う。
44	全部金属冠咬合器装着③	実習	全部金属冠の作業用模型の咬合器装着を行う。
45	上顎第一大臼歯咬合器装着	実習	上顎第一大臼歯の蠟型採得を行い、作業用模型の咬合器装着を行う。

46	部分床義歯模型製作①	実習	部分床義歯製作のため、片側欠損模型(PDW-1・PDT-2)石膏注入を行う。
47	部分床義歯模型製作②	実習	部分床義歯製作のため、片側欠損模型(PDW-1・PDT-3)石膏注入を行う。
48	部分床義歯模型製作③	実習	部分床義歯製作の作業用模型にアンダーカットを付与して咬合器装着を行う。
49	部分床義歯模型製作④	実習	部分床義歯製作の作業用模型にアンダーカットを付与して咬合器装着を行う。
50	部分床義歯咬合器装着	実習	スティッキーワックスを使用して部分床義歯製作模型を咬合器装着を行う。
51	サベヤーの使用方法を学ぶ	実習	クラスプの設計を行う前にサベヤーの使用方法を習得する。
52	クラスプの設計①	実習	クラスプの設計に必要なサベイングを行う。
53	クラスプの設計②	実習	クラスプの設計に必要なサベイングを行う。
54	クラスプの設計③	実習	クラスプの設計からブロックアウトを行う。
55	上顎大臼歯複印象①	実習	クラスプ製作のための複印象前準備～複印象を行う。
56	上顎大臼歯複印象②	実習	クラスプ製作のための複印象前準備～複印象を行い、耐火模型の製作を行う。
57	耐火模型製作	実習	耐火模型のワックスパス～鑄造鉤ワックスアップを行う。
58	鑄造鉤ワックスアップ①	実習	上顎大臼歯鑄造鉤のワックスアップを行う。
59	鑄造鉤ワックスアップ②	実習	上顎大臼歯鑄造鉤のワックスアップを行う。
60	鑄造鉤ワックスアップ③	実習	上顎大臼歯鑄造鉤のワックスアップを完成させる。
61	線鉤屈曲①	実習	上顎小臼歯線鉤屈曲を行う。
62	線鉤屈曲②	実習	上顎小臼歯線鉤屈曲を行う。
63	線鉤屈曲③	実習	上顎小臼歯線鉤屈曲を行う。
64	線鉤屈曲③・上顎小臼歯レスト製作	実習	上顎小臼歯線鉤屈曲を行い、線鉤に合わせてレストのワックスアップを行う。
65	鑄造鉤・レストの埋没作業①	実習	上顎大臼歯鑄造鉤と小臼歯部レストの埋没作業を行う。
66	鑄造鉤・レストの鑄造作業②	実習	上顎大臼歯鑄造鉤と小臼歯部レストの鑄造作業を行う。
67	鑄造鉤・レストの鑄造作業・鉤歯への適合①	実習	上顎大臼歯鑄造鉤と小臼歯部レストの鑄造作業を行い、鑄造体の鉤歯への適合を行う。
68	鑄造鉤・レストの鑄造作業・鉤歯への適合②	実習	上顎大臼歯鑄造鉤と小臼歯部レストの鑄造作業を行い、鑄造体の鉤歯への適合を行う。
69	鑄造鉤・線鉤・レストの研磨作業①	実習	上顎大臼歯鑄造鉤と小臼歯線鉤、レストの研磨作業を行う。
70	鑄造鉤・線鉤・レストの研磨作業②	実習	上顎大臼歯鑄造鉤と小臼歯線鉤、レストの研磨作業を行う。
71	人工歯排列①	実習	上顎大臼歯鑄造鉤と小臼歯線鉤を模型へ装着し人工歯排列を行う。
72	人工歯排列②	実習	上顎大臼歯鑄造鉤と小臼歯線鉤を模型へ装着し人工歯排列を行う。
73	人工歯排列③・歯肉形成①	実習	人工歯排列を完成させ、歯肉形成を行う。
74	歯肉形成①	実習	人工歯排列を完成させ、歯肉形成を行う。
75	歯肉形成②	実習	歯肉形成を完成させる。

76	埋没作業①	実習	歯肉形成完成後にコアの採得を行う。
77	埋没作業②・流蠟①	実習	歯肉形成完成後にコアの採得を行い、流蠟を行う。
78	流蠟②	実習	歯肉部分の流蠟を行い、ワックスをきれいに除去する。
79	流し込み①	実習	流蠟を行った模型に分離材を塗布し、コアに人工歯、模型にクラスプを装着し固定する。
80	流し込み②	実習	コアの固定が終了後、歯肉部分に流し込みレジンをし込む。
81	流し込み③	実習	コアの固定が終了後、歯肉部分に流し込みレジンをし込む。
82	咬合調整①	実習	人工歯の咬合調整を行う。
83	咬合調整②	実習	人工歯の咬合調整を行う。
84	歯肉部分形態修正①	実習	流し込みレジンで製作した歯肉部分の形態修正を行う。
85	歯肉部分形態修正②	実習	歯肉部分の形態修正を行い形態を整える。
86	歯肉部分形態修正③・研磨作業①	実習	歯肉部分の形態修正を行い形態を整えた後、床部分の研磨の注意事項を理解して研磨作業を行う。
87	研磨作業②	実習	レーズを使用し、研磨材の選択を理解して研磨作業を行う。
88	研磨作業③	実習	レーズを使用し、研磨材の選択を理解して研磨作業を行う。
89	研磨作業④	実習	レーズを使用し、研磨材の選択を理解して研磨作業を行う。
90	部分床義歯研磨完成	実習	上顎部分床義歯の研磨が終了し、完成させる。

科目名 (英)	歯科技術実習Ⅱ Training of Dental Technology II	年次	1	必修科目	実務経験	科目 責任者	君塚 友見
		授業形態	実習		有		
		時間数	180	授業回数	90 (コマ数)	開講区分	
学科・コース	歯科技術予備教育科	単位	6	曜日・時間		水～土/3限～5限	
講師紹介	海外留学経験があり、国内歯科技工所での臨床経験を有した教員が、臨床事例と関連づけて、歯科技術の手技を指導する。						
目的	・歯科技工で多く使われる材料であるワックスや金属、レジンについて、より複雑な製作物作成を通じて取り扱いを習得する。						
科目概要	・歯科技工で使用されるプラスチック加工技術を活用して、様々な補綴物の製作を行いより深く歯科技工技術を理解する。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・全部床義歯を製作できるようになる。 ・全部金属冠を製作できるようになる。 						
評価方法	<p>学則に定める評価とする。100～90点A(4.0)、89～80点B(3.0)、79～70点C(2.0)、69～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。()内はGPA。</p> <p>欠席日数が学則に定める授業時間の3分の1を超える者は、試験を受けることができない。</p> <p>評価は、実技試験として「作品の評価」を70点、レポートの評価を30点として100点満点とする。提出日は最終授業日から7日後の16:45までとする。</p> <p><input type="checkbox"/> 筆記試験 <input type="checkbox"/> 口頭試験 <input checked="" type="checkbox"/> 実技試験 <input type="checkbox"/> 論文 <input checked="" type="checkbox"/> レポート</p>						
教科書	なし			事前事後 学習と その内容	事前学習: 作業を示す専門用語の確認を20分程度推奨する。 事後学習: 作業工程のポイントについて繰り返し復習することを推奨する。		
参考図書	授業内に紹介する。						
特記事項	講義及び提示資料について、著作権のある資料を用いた場合を除き、写真撮影及び録音録画を許可する。						
授 業 計 画							
回数	授業テーマ	授業形態	授業内容				
1	全部床義歯模型製作	実習	全部床義歯の上下顎模型(402U・402L)の石膏注入を行う。				
2	咬合床設計・ブロックアウト	実習	全部床模型に咬合床設計、ブロックアウトを行う。				
3	基礎床の圧接①	実習	トレーレジンを使用して基礎床の製作を行う。				
4	基礎床の圧接②・形態修正①	実習	トレーレジンを使用して基礎床の製作を行い、基礎床の形態を設計に合わせて調整を行う。				
5	形態修正②	実習	基礎床の形態を設計に合わせて調整を行う。				
6	形態修正③	実習	基礎床の形態を設計に合わせて調整を行う。				
7	ロー提製作①	実習	パラフィンワックスからロー提部分の製作を行う。				
8	ロー提製作②	実習	パラフィンワックスからロー提部分の製作を行う。				
9	咬合床製作①	実習	製作したロー提を基礎床へ固定を行う。				
10	咬合床製作②	実習	固定したロー提を寸法通りに切削し、咬合床の製作を行う。				
11	咬合床製作③	実習	固定したロー提を寸法通りに切削し、咬合床の製作を行う。				
12	咬合床製作④	実習	固定したロー提を寸法通りに切削し、咬合床の製作を行う。				
13	上下咬合床完成	実習	上下顎の咬合床を完成させる。				
14	咬合器装着①	実習	製作した咬合床を咬合器装着を行う。				
15	咬合器装着②	実習	製作した咬合床を咬合器装着し、全部床義歯製作の準備を行う。				

46	レジン填入①	実習	レジンの混和方法と状態変化を理解し、流蟻が終わったフラスコへ加熱重合レジン填入する。
47	レジン填入②～掘り出し①	実習	レジンの混和方法と状態変化を理解し、流蟻が終わったフラスコへ加熱重合レジン填入し、重合が行われた後はフラスコの掘り出しを行う。
48	掘り出し②	実習	重合が終了したフラスコから全部床義歯の掘り出しを行い、掘り出した義歯を石膏溶解液へつけることで石膏の除去を行う。
49	掘り出し～咬合器再装着	実習	掘り出した全部床義歯を模型と共に咬合器へ戻し、重合状態の確認を行う。
50	全部床義歯咬合調整①	実習	選択削合の方法、手順を理解し、BULLの法則にて側方運動の削合を行う。
51	全部床義歯咬合調整②	実習	前方運動の削合の手順を理解し、前方運動時の削合を行う。
52	全部床義歯咬合調整③	実習	自動削合の手順を理解し、自動削合を行う。
53	全部床義歯形態修正①	実習	床外形線に合わせて形態修正し、バリや球状突起の除去を行う。
54	全部床義歯形態修正②	実習	削合で削られた人工歯に通路の付与を行う。
55	全部床義歯形態修正③	実習	床外形線、バリ、球状突起、通路の付与の確認、修正を行う。
56	全部床義歯研磨作業①	実習	レジンの研磨手順を理解し、専用機器(レーズ)にて荒研磨作業を行う。
57	全部床義歯研磨作業②	実習	レジンの研磨手順を理解し、専用機器(レーズ)にて中研磨作業を行う。
58	全部床義歯研磨作業③	実習	レジンの研磨手順を理解し、専用機器(レーズ)にて中研磨作業～仕上げ研磨を行う。
59	全部床義歯研磨作業④	実習	レジンの研磨手順を理解し、専用機器(レーズ)にて仕上げ研磨を行う。
60	全部床義歯完成	実習	仕上げ研磨を行い全部床義歯を完成させる。
61	支台歯のコーティング練習	実習	支台歯の模型にてワックスコーティングを行い、取り外すトレーニングを行う。
62	支台歯のコーティング練習 ～外形の蝟型採得	実習	支台歯の模型にてワックスでコーティングを行った後に上顎第一大臼歯の外形の蝟型採得を行う。
63	上顎大臼歯外形の蝟型盛り上げ①	実習	上顎大臼歯の外形までの蝟型採得を行う。
64	上顎大臼歯外形の蝟型盛り上げ②	実習	上顎大臼歯の外形までの蝟型採得を行う。
65	蝟型採得 主溝と外形製作①	実習	上顎大臼歯蝟型採得について主溝と外形の製作を行う。
66	蝟型採得 主溝と外形製作②	実習	上顎大臼歯蝟型採得について主溝と外形の製作を行う。
67	蝟型採得 主溝と外形製作③	実習	上顎大臼歯蝟型採得 主溝と外形まで完成させる。
68	下顎運動を考慮し形態修正①	実習	上下の模型を噛み合せて下顎運動を考慮した形態の製作を行う。
69	下顎運動を考慮し形態修正②	実習	下顎運動を考慮し、前方運動、側方運動を考慮した形態を付与する。
70	副溝の形成①	実習	下顎運動を考慮した蝟型へ副溝を付与する。
71	副溝の形成②～接触点・マージン処理 ①	実習	運動を考慮した主溝と外形の蝟型へ副溝を付与し、隣接面接触点の盛り足しとマージンの処理を行う。
72	接触点・マージン処理②～スブルー植立 ①	実習	隣接面接触点の盛り足しとマージンの処理を行った後、スブルー植立を行う。
73	スブルー植立②～埋没①	実習	スブルー植立～埋没作業を行う。
74	埋没②	実習	全部金属冠の蝟型を円錐台へ植立し、埋没作業を行う。
75	全部金属冠ワックスアップトレーニング	実習	埋没した全部金属冠を再度トレーニングを行う。

76	鑄造①	実習	鑄造操作の復習を2人1組行い、鑄造作業を行う。
77	鑄造②	実習	鑄造操作の復習を2人1組行い、鑄造作業を行う。
78	鑄造体適合①	実習	支台歯への適合に関する注意事項を理解し、支台歯模型へ鑄造体の適合を行う。
79	鑄造体適合②	実習	支台歯への適合に関する注意事項を理解し、支台歯模型へ鑄造体の適合を行う。
80	接点の調整	実習	咬合紙を使用して歯列模型へ戻せるように隣接面接点の調整を行う。
81	咬合調整①	実習	咬合紙を使用して咬頭嵌合位での咬合調整を行う。
82	咬合調整②	実習	咬合紙を使用して前方運動、側方運動の調整を行う。
83	研磨作業復習～溝の修正・研磨作業①	実習	金属の研磨に使用するポイントの手順を復習し、全部金属冠の研磨作業を行う。
84	溝の修正・研磨作業②～荒研磨作業①	実習	主溝の研磨～全体の荒研磨作業を行う。
85	荒研磨作業②～仕上げ研磨作業①	実習	全体の荒研磨～仕上げ研磨を行う。
86	仕上げ研磨作業②～研磨完成①	実習	全体の仕上げ研磨作業を完成させ、提出できるよう清掃を行う。
87	研磨完成②～模型清掃提出作業	実習	全体の仕上げ研磨作業を完成させ、提出できるよう清掃を行う。
88	全部金属冠ワックスアップトレーニング ①	実習	全部金属冠のワックスアップトレーニングを行う。
89	全部金属冠ワックスアップトレーニング ②	実習	全部金属冠のワックスアップトレーニングを行う。
90	全部金属冠ワックスアップトレーニング ③	実習	全部金属冠のワックスアップを試験形式で行う。

科目名 (英)	デジタル技術入門 I Introduction to Digital Dental Technology I	年次	1	必修科目	実務経験	科目 責任者	君塚 友見
		授業形態	演習		無		
		時間数	15	授業回数	8	開講区分	
学科・コース	歯科技術予備教育科	単位	1	(コマ数)		曜日・時間	水・木・金/3～5限
講師紹介	海外留学経験があり、国内歯科技工所での臨床経験を有した教員が、臨床事例と関連づけて、デジタル歯科技術の手技を指導する。						
目的	・CAD操作で必要なマウスの操作を学び、PCの画面上で設計ができる。						
科目概要	・CADフリーソフトを使ってパソコンの画面上に物を自由自在に製作し、設計を行う。操作についてのレポート作成を行う。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・マウスの操作方法を理解できる。 ・パソコンを使ってレポートの作成をすることができる。 ・スクリーンショットの方法を習得しレポート作成ができる。 						
評価方法	<p>学則に定める評価とする。100～90点A(4.0)、89～80点B(3.0)、79～70点C(2.0)、69～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。()内はGPA。</p> <p>欠席日数が学則に定める授業時間の3分の1を超える者は、試験を受けることができない。</p> <p>評価は、実技試験として「作品の評価」を70点、レポートの評価を30点として100点満点とする。提出日は最終授業日から7日後の16:45までとする。</p> <p><input type="checkbox"/> 筆記試験 <input type="checkbox"/> 口頭試験 <input checked="" type="checkbox"/> 実技試験 <input type="checkbox"/> 論文 <input checked="" type="checkbox"/> レポート</p>						
教科書	なし		事前事後 学習と その内容	<p>事前学習: 日本デジタル歯科学会のホームページの確認を推奨する。</p> <p>事後学習: 毎回の授業での作業を復習することを推奨する。</p>			
参考図書	別途、授業内で紹介する。						
特記事項	講義及び提示資料について、著作権のある資料を用いた場合を除き、写真撮影及び録音録画を許可する。						
授 業 計 画							
回数	授業テーマ	授業形態	授業内容				
1	マウス操作	演習	Tinker Cadを使ってマウスの操作方法を習得する。ブロックを置く、つなげる、操作方法を習得する。				
2	Tinker Cadの使い方	演習	Tinker Cadを使って指定された形を製作しマウスの使い方を習得する。寸法、結合、複製、解除の操作方法を習得する。				
3	Tinker Cadの使い方①	演習	4×4×2cmの範囲内で自由製作を行う。				
4	Tinker Cadの使い方②	演習	4×4×2cmの範囲内で自由製作を行う。				
5	歯科用CAD設計①	演習	Aadvaの使用方法を習得する。マウスの操作(拡大・縮小、移動、回転)を習得する。				
6	歯科用CAD設計②	演習	Aadvaの使用方法を習得する。マウスの操作(拡大・縮小、移動、回転)を習得する。				
7	デザイン作成	演習	Aadvaを使用して課題の歯種のデザインを行い、スクリーンショットを使用して作品を提出できる状態で保存を習得する。				
8	レポート作成	演習	Aadvaの製作手順についてのレポートを作成する。表紙あり(題名、出席番号、氏名を記入)、用紙:A5、縦・スクリーンショットの使い方を習得する。				

科目名	デジタル技術入門Ⅱ	年次	1	必修科目	実務経験	科目 責任者	君塚 友見
		授業形態	演習		無		
(英)	Introduction to Digital Dental Technology II	時間数	15	授業回数	8	開講区分	後期
学科・コース	歯科技術予備教育科	単位	1	(コマ数)		曜日・時間	水・木・金/3～5限
講師紹介	海外留学経験があり、国内歯科技工所での臨床経験を有した教員が、臨床事例と関連づけて、デジタル歯科技術の手技を指導する。						
目的	・CAD操作で必要なマウスの操作を学び、PCの画面上で設計ができる。						
科目概要	・歯科用CADを使ってパソコンの画面上に歯牙の設計を行う。操作についてのレポート作成を行う。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・マウスの操作方法を理解できる。 ・歯科用CADの操作を理解できる。 ・スクリーンショットの方法を習得しレポートの作成ができる。 						
評価方法	<p>学則に定める評価とする。100～90点A(4.0)、89～80点B(3.0)、79～70点C(2.0)、69～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。()内はGPA。</p> <p>欠席日数が学則に定める授業時間の3分の1を超える者は、試験を受けることができない。</p> <p>評価は、実技試験として「作品の評価」を70点、レポートの評価を30点として100点満点とする。提出日は最終授業日から7日後の16:45までとする。</p> <p><input type="checkbox"/> 筆記試験 <input type="checkbox"/> 口頭試験 <input checked="" type="checkbox"/> 実技試験 <input type="checkbox"/> 論文 <input checked="" type="checkbox"/> レポート</p>						
教科書	なし		事前事後 学習と その内容	事前学習: 日本デジタル歯科学会のホームページの確認を推奨する。 事後学習: 毎回の授業での作業を復習することを推奨する。			
参考図書	別途、授業内で紹介する。						
特記事項	講義及び提示資料について、著作権のある資料を用いた場合を除き、写真撮影及び録音録画を許可する。						
授 業 計 画							
回数	授業テーマ	授業形態	授業内容				
1	16クラウン設計①	演習	Aadvaの使用方法を習得する。 マウスの操作(拡大・縮小、移動、回転)を習得する。				
2	16クラウン設計②	演習	マージンラインの合わせ方を習得する。 彫刻ツールの使い方を習得しより細かなデザインを行う。				
3	17クラウン設計①	演習	Aadvaの使用方法を習得する。 マウスの操作(拡大・縮小、移動、回転)を習得する。				
4	17クラウン設計②	演習	マージンラインの合わせ方を習得する。 彫刻ツールの使い方を習得しより細かなデザインを行う。				
5	16クラウン設計③	演習	歯列に合わせた設計方法を習得し、スムーズな面のクラウンが設計方法を理解し、CAM機への出力方法を習得する。				
6	17クラウン設計③	演習	歯列に合わせた設計方法を習得し、スムーズな面のクラウンが設計方法を理解し、CAM機への出力方法を習得する。				
7	試験形式でのCADデザイン	演習	今まで習得した技法を使い試験形式で最初から課題の歯種のデザインを行う。				
8	レポート作成	演習	Aadvaの製作手順についてのレポートを作成する。 表紙あり(題名、出席番号、氏名を記入)、用紙:A5、縦・スクリーンショットの使い方を習得する。				

科目名 (英)	スポーツマウスガード入門 Introduction to Sports Mouse Guard production	年次	1	必修科目	実務経験	科目 責任者	君塚 友見
		授業形態	実習		有		
学科・コース	歯科技術予備教育科	時間数	30	授業回数	15	開講区分	後期
		単位	1	(コマ数)		曜日/時間	水・木・金/3~4限
講師紹介	日本スポーツ歯科医学会において学術発表を行ったJASD認定テクニカルインストラクターの教員が臨床的な内容を踏まえて授業を行う。						
目的	「スポーツ」と「歯科」の新しい関係を理解し、基本的なカスタムメイドマウスガードの製作方法を習得する。						
科目概要	・スポーツと歯科の関係を理解し、安全にスポーツを楽しむためのスポーツマウスガードの役割を知り、基本的な製作を行う。						
到達目標	・スポーツと歯科の関係について説明できる。 ・マウスガード製作に必要な模型の製作方法を説明できる。 ・カスタムメイドマウスガードと既製品のマウスガード違いについて説明できる。						
評価方法	学則に定める評価とする。100～90点A(4.0)、89～80点B(3.0)、79～70点C(2.0)、69～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。()内はGPA。 欠席日数が学則に定める授業時間の3分の1を超える者は、試験を受けることができない。 評価は、実技試験として「作品の評価」を70点、レポートの評価を30点として100点満点とする。提出日は最終授業日から7日後の16:45までとする。 <input type="checkbox"/> 筆記試験 <input type="checkbox"/> 口頭試験 <input checked="" type="checkbox"/> 実技試験 <input type="checkbox"/> 論文 <input checked="" type="checkbox"/> レポート						
教科書	なし			事前事後 学習と その内容	事前学習: 日本スポーツ歯科医学会ホームページの確認を推奨する。		
参考図書	授業内にて紹介する。				事後学習: マウスガード使用状況、マウスガード義務化競技、使用ルール等の確認を行うことを推奨する。		
特記事項	講義及び提示資料について、著作権のある資料を用いた場合を除き、写真撮影及び録音録画を許可する。						

授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	「スポーツ」×「歯科」について	実習	スポーツ歯科医学概論についてレポート製作を行う。
2	口腔内模型 印象採得	実習	口腔内模型製作のために印象採得、石膏注入を行う。
3	口腔内模型 印象採得	実習	口腔内模型製作のために印象採得、石膏注入を行う。
4	マウスガード製作にむけて 口腔内模型トリミング①	実習	自身の口腔内模型にてマウスガード製作に必要なトリミングを行う。
5	マウスガード製作にむけて 口腔内模型トリミング②	実習	自身の口腔内模型にてマウスガード製作に必要なトリミングを行う。
6	マウスガード製作にむけて 咬合器装着を行う①	実習	自身の口腔内模型を咬合器装着を行う。
7	マウスガード製作にむけて 咬合器装着を行う②	実習	自身の口腔内模型を咬合器装着を行う。
8	マウスガード製作①	実習	自身の口腔内模型について理解し必要であれば各種処理を行う。
9	マウスガード製作②	実習	加圧形成器を使用してシートの圧接を行う。
10	マウスガード製作③	実習	加圧形成されたシートをヒートカッター、金冠バサミを使用して切削を行う。
11	マウスガード製作④	実習	加圧形成されたシートをヒートカッター、金冠バサミを使用して切削を行う。
12	マウスガード製作⑤	実習	ホットエアバーナーを使用して咬合調整を行う。
13	マウスガード製作⑥	実習	形態修正を行い、口腔内に装着しても違和感の少ない装着感へと調整を行う。
14	マウスガード製作⑦	実習	形態修正を行い、口腔内に装着しても違和感の少ない装着感へと調整を行う。
15	マウスガード製作⑧	実習	口腔内へ装着しても違和感の無い装着感について理解し、製作を行う。

科目名 (英)	歯型彫刻基礎 I Basic Training of Dental Carving I	年次	1	必修科目	実務経験	科目 責任者	彦根 幸子
		授業形態	実習		有		
学科・コース	歯科技術予備教育科	時間数	60	授業回数	30 (コマ数)	開講区分	前期
		単位	2			曜日/時間	水～土/3～5限
講師紹介	歯科技工士として大学付属病院での実務経験を有しており、その豊富な経験を活かし歯の解剖学的形態の基本的な知識や技術だけではなく、臨床現場で役立つテクニックを交え授業を行う。						
目的	歯型彫刻を反復練習し、歯の解剖学的特徴を表現できるようになる。						
科目概要	切り出しナイフを使って石膏棒を歯の形に彫刻する。歯の特徴を表現できるように反復練習を行う。 上顎右側中切歯(11)・上顎右側第一大臼歯(16)の2種類の解剖学的形態を彫刻する。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ノギス、切り出しナイフを正しく使うことができる。 ・角柱の彫り方を理解し、彫ることができる。 ・上顎右側中切歯(11)・上顎右側第一大臼歯(16)の面取りの手順を理解し、彫刻ができる。 						
評価方法	<p>学則に定める評価とする。100～90点A(4.0)、89～80点B(3.0)、79～70点C(2.0)、69～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。()内はGPA。</p> <p>欠席日数が学則に定める授業時間の3分の1を超える者は、試験を受けることができない。</p> <p>評価は、実技試験として「作品の評価」を70点、レポートの評価を30点として100点満点とする。提出日は最終授業日から7日後の16:45までとする。</p> <p><input type="checkbox"/> 筆記試験 <input type="checkbox"/> 口頭試験 <input checked="" type="checkbox"/> 実技試験 <input type="checkbox"/> 論文 <input checked="" type="checkbox"/> レポート</p>						
教科書	最新歯科技工士教本「口腔・顎顔面解剖学」(医歯薬出版)			事前事後 学習と その内容	<p>事前学習： シラバスを確認し、必要な道具類を準備して授業に臨む。 動画を視聴し動作のイメージをつかむと良い。</p> <p>事後学習： 毎日30分程度、自主的な練習に取り組むことを推奨する。</p>		
参考図書	必要に応じて紹介する。						
特記事項	講義および掲示資料について、著作権のある資料を用いた場合を除き、写真撮影及び録音録画を許可する。						

授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	道具(ノギス・切り出し)の使い方① 斜面の削り出し	実習	ノギス・切り出しナイフの使い方についてできるようになる。 斜面の削り出しを練習課題とする。
2	道具(ノギス・切り出し)の使い方② ボックス型の削り出し	実習	ノギス・切り出しナイフの使い方についてできるようになる。 ボックス型の削り出しを練習課題とする。
3	11 (1.3倍大) 角柱の彫り出し ① 幅の削り方	実習	歯型彫刻のときに、まず角柱を彫る理由を理解する。 11 (1.3倍大) の大きさ計測～角柱の幅の彫り出しをデモと一緒に進行。
4	11 (1.3倍大) 角柱の彫り出し ② 厚みの削り方	実習	歯型彫刻のときに、まず角柱を彫る理由を理解する。 11 (1.3倍大) の大きさ計測～角柱の厚みの彫り出しをデモと一緒に進行。
5	11 (1.3倍大) 角柱の彫り出し ③ (通し)	実習	11 (1.3倍大) 角柱の彫り出しを、ステップ毎にチェックを受けながら通しで行う。
6	11 (1.3倍大) 角柱の彫り出し ④ (通し)	実習	11 (1.3倍大) 角柱の彫り出しを、ステップ毎にチェックを受けながら通しで行う。 早くできたら反復練習する。
7	11 (1.3倍大)の 面取り 唇側面 ①	実習	歯型彫刻のときに面取りを行う理由を理解する。 11 (1.3倍大) の唇側面の面取りをデモと一緒に進行。
8	11(1.3倍大)の 面取り 唇側面 ②	実習	11 (1.3倍大) の唇側面の面取りの手順を理解し、ステップ毎にチェックを受けながら行う。早くできたら反復練習する。
9	11 (1.3倍大)の 面取り 近心面 ①	実習	11 (1.3倍大) の近心面の面取りの手順を理解し、ステップ毎にチェックを受けながら行う。早くできたら反復練習する。
10	11 (1.3倍大)の 面取り 近心面 ②	実習	11 (1.3倍大) の近心面の面取りの手順を理解し、ステップ毎にチェックを受けながら行う。早くできたら反復練習する。
11	11 (1.3倍大)の 面取り 切縁面 ①	実習	11 (1.3倍大) の切縁面の面取りの手順を理解し、ステップ毎にチェックを受けながら行う。早くできたら反復練習する。
12	11(1.3倍大)の 面取り 切縁面 ②	実習	11 (1.3倍大) の切縁面の面取りの手順を理解し、ステップ毎にチェックを受けながら行う。早くできたら反復練習する。
13	11 (1.3倍大)の 面取り 隣接面 ①	実習	11 (1.3倍大) の隣接面の面取りの手順を理解し、ステップ毎にチェックを受けながら行う。早くできたら反復練習する。
14	11 (1.3倍大)の 面取り 隣接面 ②	実習	11 (1.3倍大) の隣接面の面取りの手順を理解し、ステップ毎にチェックを受けながら行う。早くできたら反復練習する。
15	道具の取扱いと11 (1.3倍大) の面取り 実技試験とフィードバック	実習	11 (1.3倍大) 面取りを全ステップ通しで試験を行う。試験後は教員から作品のフィードバックを行い、課題となるステップの練習する。

16	16 (天然歯大)の角柱	実習	16 (天然歯大)の角柱をデモと一緒に実践し、早くできたら反復練習する。
17	16 (天然歯大)の面取り 咬合面	実習	16 (天然歯大)の角柱からデモと一緒に実践し、早くできたら反復練習する。
18	16 (天然歯大)の面取り 咬合面	実習	16 (天然歯大)の咬合面の面取りを理解し、ステップ毎にチェックを受けながら実践し、早くできたら反復練習する。
19	16 (天然歯大)の面取り 頬側面	実習	16 (天然歯大)の頬側面の面取りをデモと一緒に実践し、早くできたら反復練習する。
20	16 (天然歯大)の面取り 隣接面	実習	16 (天然歯大)の隣接面からの面取りをデモと一緒に実践し、早くできたら反復練習する。
21	16 (天然歯大)の面取り 隣接面	実習	16 (天然歯大)の隣接面の面取りを理解し、ステップ毎にチェックを受けながら実践し、早くできたら反復練習する。
22	16 (天然歯大)の面取り 咬頭差、主溝の設定	実習	16 (天然歯大)の咬頭差と主溝の設定をデモと一緒に実践し、早くできたら反復練習する。
23	16 (天然歯大)の面取り 咬合面～主溝の設定	実習	16 (天然歯大)の咬合面から主溝の設定までの手順を理解して、ステップ毎にチェックを受けながら実践し、早くできたら反復練習する。
24	昼間部との特別授業	実習	昼間部有志の学生と彫刻練習を相互実習で技術を高める。
25	16 (天然歯大)の面取り 4隅角の修正	実習	16 (天然歯大)の4隅角の面取りをデモと一緒に実践し、早くできたら反復練習する。
26	16 (天然歯大)の面取り 4隅角の修正	実習	16 (天然歯大)の4隅角、咬頭の面取りをデモと一緒に実践し、早くできたら反復練習する。
27	昼間部との特別授業	実習	昼間部有志の学生と彫刻練習を相互実習で技術を高める。
28	16 (天然歯大)の面取り 4隅角、咬頭	実習	16 (天然歯大)の4隅角、咬頭の面取りを理解して、ステップ毎にチェックを受けながら実践し、早くできたら反復練習する。
29	16 (天然歯大)の面取り 咬合面～咬頭	実習	16 (天然歯大)の咬合面から咬頭までの手順を理解して、ステップ毎にチェックを受けながら実践し、早くできたら反復練習する。
30	昼間部との特別授業	実習	昼間部有志の学生と彫刻練習を相互実習で技術を高める。

科目名 (英)	歯型彫刻基礎Ⅱ Basic Training of Dental Carving Ⅱ	年次	1	必修科目	実務経験	科目 責任者	彦根 幸子
		授業形態	実習		有		
		時間数	30	授業回数	15 (コマ数)	開講区分	後期
学科・コース	歯科技術予備教育科	単位	1	曜日/時間		水～土/3～5限	
講師紹介	歯科技工士として大学付属病院での実務経験を有しており、その豊富な経験を活かし歯の解剖学的形態の基本的な知識や技術だけではなく、臨床現場で役立つテクニックを交え授業を行う。						
目的	歯型彫刻を反復練習し、歯の解剖学特徴を表現できるようになる。						
科目概要	切り出しナイフを使って石膏棒を歯の形に彫刻し、歯の特徴を表現できるように反復練習を行う。 歯型彫刻基礎Ⅱでは、下顎右側第一大臼歯（46）の解剖学的形態を彫刻する。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ノギス、切り出しナイフを正しく使うことができる。 ・下顎右側第一大臼歯（46）の面取りの手順を理解し、一人で彫刻ができる。 						
評価方法	学則に定める評価とする。100～90点A(4.0)、89～80点B(3.0)、79～70点C(2.0)、69～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。()内はGPA。 欠席日数が学則に定める授業時間の3分の1を超える者は、試験を受けることができない。 評価は、実技試験として「作品の評価」を70点、レポートの評価を30点として100点満点とする。提出日は最終授業日から7日後の16:45までとする。 <input type="checkbox"/> 筆記試験 <input type="checkbox"/> 口頭試験 <input checked="" type="checkbox"/> 実技試験 <input type="checkbox"/> 論文 <input checked="" type="checkbox"/> レポート						
教科書	最新歯科技工士教本「口腔・顎顔面解剖学」(医歯薬出版)			事前事後 学習と その内容	事前学習： シラバスを確認し、必要な道具類を準備して授業に臨む。 動画を視聴し動作のイメージをつかむ。 事後学習： 毎日30分程度、自主的な練習に取り組むことを推奨する。		
参考図書	必要に応じて紹介する。						
特記事項	講義および掲示資料について、著作権のある資料を用いた場合を除き、写真撮影及び録音録画を許可する。						

授 業 計 画

回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	46(天然歯大)の角柱	実習	46(天然歯大)の角柱をデモと一緒に進行。 早くできたら反復練習する。
2	46(天然歯大)の面取り 咬合面①	実習	46(天然歯大)の咬合面の面取りをデモと一緒に進行。 早くできたら反復練習する。
3	47(天然歯大)の面取り 咬合面②	実習	46(天然歯大)の咬合面の面取りを理解し、ステップ毎にチェックを受けながら行う。早くできたら反復練習する。
4	46(天然歯大)の面取り 頬側面	実習	46(天然歯大)の頬側面の面取りをデモと一緒に進行。 早くできたら反復練習する。
5	46(天然歯大)の面取り 隣接面①	実習	46(天然歯大)の隣接面からの面取りをデモと一緒に進行。 早くできたら反復練習する。
6	46(天然歯大)の面取り 隣接面②	実習	46(天然歯大)の隣接面の面取りを理解し、ステップ毎にチェックを受けながら行う。早くできたら反復練習する。
7	46(天然歯大)の面取り 咬合面～隣接面	実習	46(天然歯大)の咬合面、頬側面、隣接面の面取りを理解して、ステップ毎にチェックを受けながら行う。早くできたら反復練習する。
8	46(天然歯大)の面取り 咬頭差①	実習	46(天然歯大)の咬頭差の面取りをデモと一緒に進行。 早くできたら反復練習する。
9	46(天然歯大)の面取り 咬頭差②	実習	46(天然歯大)の咬頭差の面取りの手順を理解して、ステップ毎にチェックを受けながら行う。早くできたら反復練習する。
10	46(天然歯大)の面取り 主溝の設定、4隅角の修正①	実習	46(天然歯大)の主溝の位置を決める。また4隅角の面取りをデモと一緒に進行。 早くできたら反復練習する。
11	46(天然歯大)の面取り 主溝の設定、4隅角の修正②	実習	46(天然歯大)の主溝の位置を決める。また4隅角の面取りをデモと一緒に進行。 早くできたら反復練習する。
12	46(天然歯大)の面取り 咬頭	実習	46(天然歯大)の咬頭の面取りをデモと一緒に進行。 早くできたら反復練習する。
13	46(天然歯大)の面取り 4隅角、咬頭	実習	46(天然歯大)の4隅角、咬頭の面取りを理解して、ステップ毎にチェックを受けながら行う。早くできたら反復練習する。
14	46(天然歯大)の面取り 咬合面～咬頭	実習	46(天然歯大)の咬合面から咬頭までの手順を理解して、ステップ毎にチェックを受けながら行う。早くできたら反復練習する。
15	46(1.3倍大)の面取り 実技試験とフィードバック	実習	(1.3倍大)の面取りを全ステップ通して試験を行う。完成後は教員から作品のフィードバックを行い、課題となるステップの練習する。

科目名 (英)	インターンシップ Internship	年次	1	必修科目	実務経験	科目 責任者	彦根 幸子
		授業形態	実習		有		
		時間数	30	授業回数	15	開講区分	
学科・コース	歯科技術予備教育科	単位	1	(コマ数)		曜日/時間	木・金/3~5限
講師紹介	歯科技工士として大学付属病院での実務経験を有しており、その豊富な経験を活かし今後の歯科技工業界を見据えて見学、就業体験を通じて知識を深める授業を行う。						
目的	日本の歯科業界の現場を見学し、日本の歯科医療の技術レベルや働き方を理解する。						
科目概要	日本の歯科医療技術のレベルを理解するために、歯科技工所の見学と、歯科技工所での就業体験を行う。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 日本の歯科技工士の働き方について説明できる。 日本の歯科技工技術レベルについて説明できる。 						
評価方法	<p>学則に定める評価とする。100~90点A(4.0)、89~80点B(3.0)、79~70点C(2.0)、69~60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。()内はGPA。</p> <p>欠席日数が学則に定める授業時間の3分の1を超える者は、試験を受けることができない。</p> <p>評価は、各回レポートの評価を100点満点換算し、平均点にて行う。レポートの提出期限については授業内にて伝達する。</p> <p><input type="checkbox"/> 筆記試験 <input type="checkbox"/> 口頭試験 <input type="checkbox"/> 実技試験 <input type="checkbox"/> 論文 <input checked="" type="checkbox"/> レポート</p>						
教科書	なし		事前事後 学習と その内容	<p>事前学習: 訪問する企業、就業体験企業のホームページや求人票の 確認を推奨する。</p> <p>事後学習: 得られた経験をレポートへまとめ、経験を振り返る。</p>			
参考図書	必要なときに紹介します。						
特記事項	見学及び就業体験時について、著作権のある資料を用いた場合を除き、写真撮影を行い、企業の方から戴くフィードバックを残しておくこと。						
授 業 計 画							
回数	授業テーマ	授業形態	授業内容				
1	歯科技工所見学準備	実習	見学についての心構えや身だしなみ等について理解し、授業として学外へ出る準備を行う。				
2	歯科技工所見学事前グループワーク①	実習	見学する企業に関する情報をホームページなどを用いて事前に情報収集を行う。				
3	歯科技工所見学事前グループワーク②	実習	見学する企業について調べた情報をグループで発表し、今後お世話になる企業に対して電話による事前の連絡と、持ち物などの確認を行う。				
4	歯科技工所見学①	実習	事前に確認した技工所へ伺い、事前に確認した内容などを元に臨床の現場を見学する。				
5	歯科技工所見学①	実習	事前に確認した技工所へ伺い、事前に確認した内容などを元に臨床の現場を見学する。				
6	歯科技工所見学①	実習	事前に確認した技工所へ伺い、事前に確認した内容などを元に臨床の現場を見学する。				
7	歯科技工所体験①	実習	事前に確認した技工所へ伺い、半日の就業体験を行う。				
8	歯科技工所体験①	実習	事前に確認した技工所へ伺い、半日の就業体験を行う。				
9	歯科技工所体験①	実習	事前に確認した技工所へ伺い、半日の就業体験を行う。				
10	歯科技工所体験②	実習	事前に確認した技工所へ伺い、半日の就業体験を行う。				
11	歯科技工所体験②	実習	事前に確認した技工所へ伺い、半日の就業体験を行う。				
12	歯科技工所体験②	実習	事前に確認した技工所へ伺い、半日の就業体験を行う。				
13	歯科技工所見学②	実習	事前に確認した技工所へ伺い、半日の就業体験を行う。				
14	歯科技工所見学②	実習	事前に確認した技工所へ伺い、半日の就業体験を行う。				
15	歯科技工所見学事後グループワーク	実習	インターンシップにて見学、就業体験を行ったことをレポートにまとめ、グループワークにて気づきの共有を行う。				